

DXによる革新に期待

東大 第7回イノベセミナー

東京大学下水道システムイノベーション研究室は15日、ZOOMで第7回下水道イノベーションセミナー@本郷を開催、約400人が参加した。

今回のテーマは、DXによる上下水道システムの革新。同研究室の加藤裕之特任准教授が司会を務めた。

冒頭、同研究室の滝沢智教授が「本研究室は4月で開設から5年目となる。これまで、6回のセミナーを開催し、異なるテーマで有識者から発表いただき、大変勉強になっている。今日は今後の上下水道事業で重要になるDXの活用がテーマ。私自身もとても楽しみに

している」とあいさつ。はじめに、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻の橋本崇史准教授、飛野智宏准教授が「水分野の明るい未来に向けたデジタル化・産官学の若手が考える課題と可能性」と題して講演。

橋本准教授は、水分野におけるデジタル化の課題を整理した上で、土木学会環境工学委員会上下水道におけるIoT・ICT・AI活用小委員会

の活動を紹介しつつ、短期・中長期的な都市水インフラサービス全体として重要な観点に、信頼性、レスリエンス、持続可能性を挙げた。また、社会的観点と技術的観点

からそれぞれ障壁を示し、これらを打破するために都市水インフラシステムについて全体最適を考えていくことが重要であると述べた。

飛野准教授はDXの3段階(Digitalization→Digitization→Digital Transformation)

を挙げ、小委員会における技術マッピングによる国内状況を共有。水インフラにおけるDXの障壁や信頼できるAIの要件、説明可能性と堅牢性の担保などに触れ、DX

を持続を実現するために、DX技術のマップは、DX技術のマップは、最新動向やポテンシャルを生かす仕組みの構築、DX技術の利用ルールと展開戦略を小委員会の中で議論していくとした。

続いて、横浜市環境創造局政策調整担当課長が「横浜下水道DX戦略」

の策定背景や概要、他の施策との関係、戦略構成を紹介。具体的なアクションを説明しつつ、BP

を示した。最後に、水みらい広島取締役副社長兼DXプロジェクトプロシエクトマネージャの村上徹也氏が「水の未来を切り開くデジタル技術：上下水道の

変革」と題し、なぜ上下水道の変革が必要なのかについて公民連携企業の立場から整理することも

あるが、解決は時間の問題。DXによって水業界の構図が変わるのではないか」と今後の変革に期待を込めた。